

令和6年度 学校関係者評価結果

1. 評価日：令和7年3月13日（木）13：30～15：00

2. 評価者：6名

- 1) 関連業界関係者：公益社団法人香川県看護協会 会長
- 2) 高等学校関係者：香川県立丸亀城西高等学校 校長
- 3) 地域住民：保護者
- 4) 卒業生：NHO 四国こどもとおとなの医療センター 看護師長
- 5) 教育関連有識者：四国学院大学 教授
- 6) 看護管理者：香川県立丸亀病院 看護部長

3. 学校出席者

- 1) 学校長 2) 副学校長 3) 教育主事2名 4) 事務長

4. 評価対象：

- 1) 令和6年度学校運営目標に基づく実施状況とその評価、今後の課題について
- 2) 令和6年度カリキュラム評価結果、学科目別平均点、学生による授業評価結果
- 3) 令和6年度自己評価自己点検結果

5. 評価結果：

研究発表7題や研究授業による相互研鑽と積極的に取り組まれている。学生の探求的学びを導く教授方法でも、演習科目における教員間で共有を図り取り組んでいることがうかがえた。その他、ルーブリック評価やリフレクションノートを活用したコーチング等、学生が主体的に学べるよう工夫されていることが分かった。教職員間の協働による組織の活性化や学校経営の安定化は、重要項目ではあるものの、課題が残っていることがうかがえた。対話を重視しつつ、余裕をもった業務遂行のためには人員確保が必要であるが増員枠の1名が欠員ということで苦慮されていることがわかった。実施可能なことから着手され、教員の働き方改革につなげられることを期待する。

地域社会への貢献のためには学生確保は必要不可欠であり、そのための指定校推薦制の導入、四国4県にわたる募集活動に尽力されたことは評価できる。今後は学校の認知度を上げるべく、地域に向けた情報発信、地域に出ていく教科外活動、ボランティアの機会を増やしていかれることを期待する。

多様な学生がいる中で、学生と真摯に向き合い、行き過ぎた指導とならないよう、取り組まれたことがうかがえた。そのうえで、学生と教員の相互関係の中、お互いに成長できるような教育環境整備の方向性が示され、命を扱う仕事に従事する学生教育において、看護の専門教育だけでなく、人間教育の場と捉えられ、日々真剣に取り組まれていると思う。